

【人と人との協力】

沖繩県

西原町立西原中学校

一年

平良たいら 柚ゆず

皆さんは、水について考えたことがあるでしょうか。例えば「水はどういった経緯で私たちのもとへ届くのか」「水は、どのような使用用途があるのか」といった疑問がわいてくると思います。私もそのような疑問を持ったので、水について調べてみました。

私たちが普段当たり前のように使っている「水」。しかし、その水も十分に得られない人々がいるのです。

水とは、化学式H₂Oで表される、水素と酸素の化合物です。水は人類にとって最もありふれた液体であり、基本的な物質です。また、人が生命を維持するには必要不可欠であり、様々な産業活動にも不可欠な物質です。

私はこの文を読み、水の大切さ、重要さを知りました。人間の七〇%が水分でできており、その二割を失えば危険な状態になるというのは知っていましたが、ここまで重要なものとは知りませんでした。

ですが、そんな重要な水を、十分に得られない人々も多くいます。世界では、総人口約七十七億人（二〇一九年時点）のうち七億八千万の方が清潔な水を利用できない状況にあります。飲めば体調を崩すことが分かっているにもかかわらず、不衛生な水を飲む以外に選択肢のない人々がいます。世界中のどこであっても、安心して使える水が入ることは、基本的な人権です。その人権すらないがしろにされている人がいるということを忘れてはいけません。

私がこの事実には驚愕したことは、言うまでもないことです。世界に目を向けてみれば、「水」という一つの物質にも、様々な問題が生じています。「水くみに時間と体力を奪われ、学校に通えない子供がいる」、「不衛生な水を飲むことで体調を崩しやすくなり、病にかかったり、働けずに収入が得られない」といった問題が多数あげられるようになりました。

そんな多種多様な問題の理由、いわば核は、政府の抱えた問題に直結します。主な理由は、三つあります。

一つ目は、資金不足、もしくは水の衛生という面が政治的優先事項ではないということ。資金の不足に加え、すべての人に清潔な水を与えることを最優先課題とする政治的意思がないことが関係しています。

二つ目は、政府が水を供給できないこと、三つ目は深刻な格差が原因となつていきます。遠く離れた農村地域に住む人々は、安心して使える水源がなかなか確保できない状況に置かれています。しかし都市部であっても、障害や民族、差別などの理由で水の利用機会を得られない人もいます。このように、水についての多様な問題も、深刻な状況になっています。

このような問題の解決には、人と人との協力が不可欠になってきます。互いが互いを思いやり、社会の大きな問題に立ち向かうことが大切だと思います。

実際、世界全体で行われる国際団体にてこれらの問題の他にも多様な問題を解決するための目標、「SDGs」（持続可能な開発目標）が掲げられています。SDGsの目標は全部で一七。それを達成させるための具体的な目標「百六十九のターゲット」。その中には身近なものも多く、例えば、「まだ食べられる食べ物を捨てる（食品ロス）を防ぐため、残飯を減らす」「買い物の際はマイバッグを用意する」などです。また、SDGsは普遍的な目標として「誰一人取り残さない」という約束を掲げています。

今を必死で生きるもの同士、手を取り合い、多くの困難を乗り越えていくこと。それこそが、世界が掲げる国際目標、SDGsの「誰一人取り残さない」に直結するのではないかと私は考えます。皆が平等に笑い合える、明るい未来を、私は強く望みます。

※縦書きのため、算用数字を漢数字に修正しています。

